

重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道徳性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道徳教育
- ③ 特別活動
- ④ 総合的な学習の時間
- ⑤ 外国語活動(小学校)
- ⑥ 情報教育

(2) 施策・事業の実施状況

① 学習指導

各学校は、「学力向上推進計画」を立案し、自校の実態を分析するとともに学力向上の具体的な手立てを講じて、学習指導の工夫・改善に組織的に取り組んできた。

今年度の全国学力・学習状況調査では、本市は、小・中学校とも全ての教科で全国平均を上回った。また、県平均と比較しても、同じ得点だった小学校の算数B以外は全て上回っており、特に中学校国語Bでは、県平均を4ポイント上回る結果であった。

2学期以降も、各学校で学力向上推進計画の取組指標と成果指標の見直しを行い、更なる基礎・基本の定着と、読解力や思考力を育成する学習の充実に取り組んだ。また、過去問題の適切な活用や学習支援サイト「学びの森」を通して、問題対応力の育成を図り、次年度の全国学力・学習状況調査及び県学力診断調査等の結果につなげる指導も行った。

教育委員会は、日々の授業改善や指導力の向上を目指して、校内研修の充実に努めるように指導した。教職員の資質・能力の向上を目指して、市教研では、小学校9部会、中学校9部会の教科部会を編成し、全員がいずれかの部会に所属して研修を深めた。

部会の運営については、第1回研究集会を4月14日に開催し、各部会の研究主題、研究推進計画を策定した。教科部会の研究集会を6月27日と11月8日に、教科外部会の研究集会は10月下旬を中心に部会別に開催し、授業研究や実践報告等を行った。各部会ともテーマに迫る実践的な研修を行うことができ、確かな学力の定着と向上を目指した有意義な研修となった。また、11月8日には、第46回市教研大会を松柏ブロック(松柏中学校、千丈小学校)を会場として行い、研究発表・研究協議並びに愛媛大学大学院教育学研究科教授の平松義樹先生を講師として招いた教育講演会を開催した。

また、教育活動指導員を、継続して4校（白浜小、神山小、千丈小、宮内小）に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間

小学校においては、道徳教育上学年と下学年、特別活動の部会を、中学校においては、道徳教育と特別活動の部会を編成し、教育研究推進に取り組んだ。総合的な学習の時間については、各校の主任による小・中合同部会を編成し研究に取り組んだ。

部会の運営については、第1回研究集会を4月14日に開催し、部会ごとの研究主題、研究推進計画を策定した。第2回研究集会を8月上旬から11月上旬に部会別に開催し、研究授業や実践報告、講師を招いての研修等、各部会の主体性を生かした研究を行った。

- 道徳部会（小・下学年）・・・10月26日 研究授業等（白浜小学校）
- 道徳部会（小・上学年）・・・10月31日 研究授業等（喜須来小学校）
- 道徳部会（中学校）・・・9月28日 研究授業等（愛宕中学校）
- 特別活動（小学校）・・・10月31日 研究授業等（江戸岡小学校）
- 特別活動（中学校）・・・11月9日 実践報告等
- 総合的な学習の時間（小・中合同）・・・8月7日講義（県総合教育センター）

③ 外国語活動(小学校)

10月26日、江戸岡小学校を会場とし、研究授業・研究協議・情報交換を行った。

市教委は、ALT3名と外国語指導助手コーディネーター1名を継続採用し、小学校の外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校4年生以下の外国語教育に継続して取り組んだ。

④ 情報・視聴覚教育

ICT機器を積極的に活用した授業が各校で行われた。7月31日に、業者を招いて校務用パソコンの変更に伴う新システム運用について研修を行った。

教職員の情報機器リテラシーが高まる一方で、情報モラルの向上やハザード対応力の強化は依然として課題である。各学校においては、児童生徒の啓発はもちろん、教職員や保護者の研修に積極的に取り組んだ。

また、ホームページを活用した積極的な情報発信については、全ての学校で、充実した内容になっている。

⑤ 郷土学習

小学校3・4年生は、平成27年度に改訂した郷土学習資料「八幡浜の暮らし」を活用して郷土学習を行った。

また、総合的な学習の時間において郷土の文化や産業、環境をテーマに探究的な学習に取り組んだ。

⑥ 研究事業等

次の学校が研究指定を受け、教育実践を通して児童生徒の生きる力の育成に成果を上げた。

- 学校防災教育実践モデル地域研究事業（川之石小）
- 森はともだち推進事業（日土小～30年度）

- 県複式学級担任者研修会（双岩小）
- N I E実践校（白浜小、松柏中）
- 県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会（保内幼）

【事務事業点検評価委員意見】

- 学習指導においては、「教員の資質・能力の向上」のための施策と関連するが、市内ブロック別研修、県教育委員会主催の研修会、その他の研修会など、様々な機会を活かして取り組んでいる。その成果が子どもたちへと還元されていることが、全国学力・学習状況調査結果でも明らかである。今後も、ブロック内での小・中学校教員交流の活性化を望む。一方、市教研部会によっては部員数の減少が大きな課題となっている部会もあり、早急な具体策が求められている。他市町との連携も視野に入れるなど、重ねて検討をお願いしたい。
- 様々な教育分野の具体的な教育活動において、教員の豊かな資質・能力が求められて久しい。新しく教科となった道徳も含めて、子どもたちが学びの場で見せる様々な姿に対して臨機応変に対応できる感性や実践力、子どもの活動を記録・評価・蓄積してその後の指導に活かしていける企画力など、教員に求められる資質には際限はない。日々の具体的な研修活動を積み重ねることによる着実な小さな歩みを、今後も積み重ねていきたい。市教育委員会の強力な支援が今こそ必要な時である。
- 学校は今までも、そして、これからも確かな学力を育む教育課程を編成し、実践していく。しかし、その過程を通して学校生活の中で”やるべき事”が多くなり、肥大化してきた事も事実ではないだろうか。限られた時間の中でより効果的に確かな学力を育む教育を実践するためには、今までやってきた”やるべき事”を今一度吟味し、子どもの現状や地域の願いをもとに取捨選択して、学校の教育目標を具現化するために必要なものを抽出するスリム化が必要ではないかと考える。学校の統廃合が進む今こそ、市内ブロック体制なども含めて取り組むチャンスではないだろうか。
- 小・中学校を通して学ぶ郷土学習は、八幡浜の学習から始まり、やがては我が国の学習へと発展するものであり、最終的には日本人としてのアイデンティティを確立する基礎学習となる。グローバルな時代に生きる子どもたちにとって、外国語学習とともに重要な学びである。子どもの成長に応じた横断的な学習が展開されることを期待している。

【自己評価】

- 市教研部会の課題解決に向けて、大きく組織改革を行う方向で検討している。更なる改善を目指し、各部会の実践や要望等をまとめ、適切な対応や支援を続けていきたい。
- 小学校では、道徳科・特別活動・総合的な学習の時間が新学習指導要領による実施となるため、評価の在り方等を含め、研修を充実させて日々の実践に生かせるように努めている。
また、小・中ともに移行措置がスムーズに実践できるよう、特別部会や教科・教科外部会で情報交換を密にし、各校の主任や各部会の部長のリーダーシップが発揮できるよう市教育委員会として支援を継続する。
- キャリア教育、プログラミング教育、主権者教育、消費者教育等、学校現場には多くの教育実践が求められているが、学校現場の実態を把握した上で、学校の教育目標実現のために必要な教育課程の編成・実施を指導していく。ブロック体制の見直し等も計画的に取り組みたい。
- 新学習指導要領の完全実施に向けて、小学校3、4年生が授業等で使っている「八幡浜の暮らし」を改訂する。郷土の発展に尽くした偉人についての内容も充実させ、小・中学校を通して学ぶ郷土学習に生かせるようにしたい。